真野小だより

児童数：４６３名
Ｎｏ．１５
令和４年１１月３０日発行

学校教育目標『あかるく　やさしく　たくましく』

師走を迎えます　よい締めくくりを

いよいよ１２月、師走を迎えます。早いもので令和４年も残すところひと月となりました。２学期も４分の３が過ぎ、第４コーナーにさしかかりました。学習や生活について、しっかり振り返り、よい締めくくりをして、新しい年を迎えてほしいと思います。

いもこじ

さて、表題の「いも（芋）こじ」ですが、この言葉は、桶の中に里芋（さといも）と水を入れ、そこに長い板や棒を入れてかき回すことです。桶に突っ込んだ板で具合よくかき混ぜると、桶のなかで芋と芋がぶつかりあいこすれあって、どの芋も傷つくこともなく、自然にきれいになっていきます。この、芋が互いに磨き合う様子に、集団研鑽の原理を見出したのが、二宮尊徳だと言われています。

本校の前庭にもいらっしゃる二宮尊徳（１７８７～１８５６）は、藩政改革や疲弊した農村の復興に尽力した皆様がよくご存じの江戸時代後期の思想家・農政家です。尊徳が直接・間接に復興に関わった農村は６００余と言われています。復興に当たって重視したのが、農民同士の集会、話し合いでした。農民達自身の内発的な意欲と努力がない限り、復興は不可能であることを知っていた尊徳は、それを生み出すための場として、農民同士の話し合いの場を持つようにしていました。そして、その話し合いの場のことを「いも（芋）こじ」と呼んでいました。

転じて、対話や話し合いを通して、人が互いに磨きあう教育のあり方をも指すようになります。これを学校、教室に当てはめると、「芋こじ」は板（教師）で芋をこするのではなく、板によって動かされた芋が互いにこすり合って磨きをかけていくということで、芋こじからイメージする学習は、一人ひとりの疑問や問題を大切にし、対話や話し合いを通して自分の考えを深めていく学習ということになります。人間は一人ひとりが良さを持っている存在です。それを互いに見つけ磨きあっていく場こそが授業だと考えています。その過程で、「〇〇さんはすごい考えを持っているな。」とか「〇〇さんは優しいところがあるぞ。」など、友だちのよさを発見していくこともできます。自分の考えをも見直すきっかけを与えてくれたり、深めてくれたりすることもあります。そんな、心を許せる桶（教室）の中で、子ども達が互いに尊重し合う関係を育てていきたいと思っています。

今一度気を引き締めて

～新型コロナウイルス・季節性インフルエンザの同時流行に備えて～

新型コロナウイルス感染症に関する滋賀県知事メッセージ
（11 月 25 日:県民の皆さまへの 5 つのお願いより）

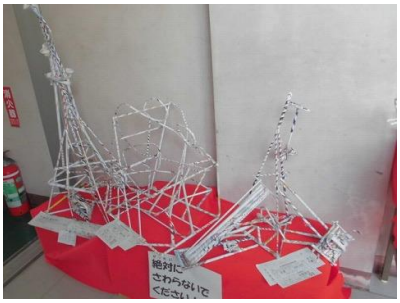
- **マスク、換気等の基本的な対策を**
- **会食は認証店舗の利用し、お店の対策に協力を**
- **無料検査の早めの受検を**
- **これまで感染した人も接種済みの人ももう一度ワクチン接種を、インフルエンザのワクチンも接種を**
- **発熱等に備えて連絡先の確認や検査キット、解熱鎮痛剤の準備を**

今年の冬は新型コロナウイルス感染症の第８波の到来で、今年の夏を上回る感染拡大が生じる可能性について報じられています。厚生労働省は１日当たりの新規感染者を最大４５万人と想定しています。加えて、季節性インフルエンザが大流行すると言われています。本校でも季節性インフルエンザの罹患はまだありませんが、新型コロナウイルス感染症の感染者は確実に増加しています。

今一度気を引き締めて、基本的な感染防止対策（必要な場面でのマスクの着用、手洗い、３密の回避、換気）の徹底を呼び掛けていきたいと思います。

滋賀県教育美術展立体作品の展示

滋賀県教育美術展立体作品の部に本校の代表として出品された作品を展示しています。力作ぞろいです！



随時更新しています！真野小学校Webページをご覧下さい！

学校行事や学習の様子を随時紹介しています。是非ご覧下さい。

真野小学校　検索

ＵＲＬ：http://www.otsu.ed.jp/mano-e/